

# 2009年度

## 入試概要分析

2009年度入試の概要がこの夏にほぼ出揃った。本誌では受験環境の変化や来春入試の主な変更点をまとめるとともに、8月に実施された第2回全統マーク模試の志望動向もあわせてお伝えしたい。

### ◆大学志願者数は約1万人減少の見込み

来春の入試概要を見る前に、8月に文部科学省より公表された「平成20年度 学校基本調査速報」から、今春入試の受験動向について振り返っておきたい【表1】。新規の高卒者数は約108万9千人で前年を約5万9千人下回った。大学の志願者数は67万人で、前年から19,580人の減少となった。新規高卒者の大学への志願率は53.5%で前年から1.7ポイント上昇したが、18歳人口の減少が大きく、大学志願者数の減少を食い止めるには至らなかった。

2009年度入試では、18歳人口は約2万5千人減少する見込みである。一方、高卒者のうち大学を志願する者の割合は今後も増加していくことが予想される。河合塾では、これらを見込んで大学への志願者数は今春入試から約7千人減少の66万4千人程度と想定している。

では、このような環境下で行われる2009年度入試の概要を国公立大、私立大の順に見ていこう。

【表1】高校卒業者と大学志願者数・入学者の推移

年度	18歳人口	新高卒者数	大学志願者数	大学入学者数	大学への入学率
1998	1,622,198	1,441,061	790,423	581,705	73.6%
1999	1,545,270	1,362,682	756,422	579,420	76.6%
2000	1,510,994	1,328,940	745,199	587,142	78.8%
2001	1,511,845	1,327,109	750,324	588,871	78.5%
2002	1,502,711	1,315,079	756,333	590,845	78.1%
2003	1,464,760	1,281,656	742,934	586,749	79.0%
2004	1,410,403	1,235,482	722,219	580,456	80.4%
2005	1,365,471	1,203,251	699,732	586,296	83.8%
2006	1,325,208	1,172,087	690,615	587,512	85.1%
2007	1,298,718	1,148,108	689,673	597,219	86.6%
2008	1,236,363	1,089,261	670,093	589,558	88.0%
2009	1,211,242	1,067,104	663,502	596,574	89.9%

※文部科学省学校基本調査より作成(2008年度は速報値、2009年度は一部推定)

※新高卒者数・志願者数は中等教育学校を含む

※志願者数は頭数で過年度卒業生を含む

※入学者数は過年度卒業生を含み、外国の学校卒、検定等を除く

※入学率は入学者数/志願者数

## 国公立大学編

### ◆後期日程の募集人員は503人減少

国立大学協会が募集を前期日程に一本化することを条件つきで認める見解を示し、すでに**京都大**をはじめ**東北大**や**名古屋大**が複数学部の後期日程を廃止している。2009年度入試でも引き続き難関大を中心に後期日程の廃止・縮小が行われる。【表2】は昨今の国公立大の募集人員を日程・選抜別に比較したものである。国公立大全体の後期日程の募集人員は20,776人から20,273人(-503人)に減少しており、一方、前期日程が343人増、A O入試が210人増、推薦入試が629人増となっている。

【表3】は後期廃止の学部(学科)をまとめたものである。一橋大は商学部の後期を廃止し、法、社会学部では後期の募集人員をそれぞれ10名に縮小する。京都大は医学部人間健康科学科で後期を廃止し、全学部で前期日程のみとなる。このほか、東北大(文)、大阪大(理-生物科学)、九州大(教育、医-保健)などで後期日程を廃止する。

今春入試において多くの大学で後期日程が廃止された医学科は、来春入試でも**金沢大**、**大阪市立大**、**長崎大**の3大学が後期日程を廃止する。また、**旭川医科大**は募集人員を40→17名に減らし、国公立医学科全体として後期日程の募集人員は751→678名と、約1割減少する。数少なくなった実施大への志

願者集中が予想される。

以上のように、旧帝大および医学科といった難関大・難関系統を中心に、後期日程の縮小傾向は加速している。すでに2010年度入試においても、**筑波大**(人文・文化学群-日本語・日本文化学類)、**大分大**(医-医)、**和歌山県立医科大**(医-医)、などで後期廃止が予告されており、今後も拡大傾向である。

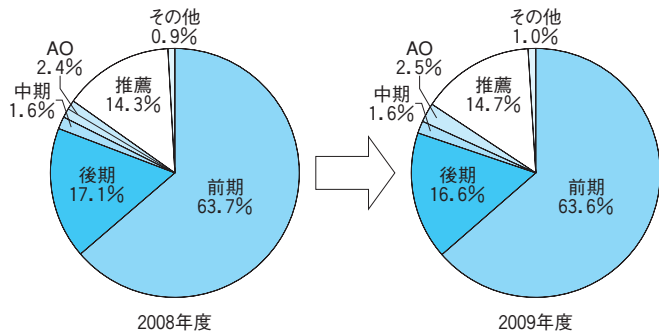
一方、「新たに後期日程を実施する」「募集人員を前期から後期にシフトする」といった動きも見られる。後期日程を新たに実施するのは、**岩手県立大**(ソフトウェア情報)、**青森県立保健大**(健康科学-理学療法)、**筑波大**(生命環境学群-地球学類)、**静岡大**(教育-学校-社会科)、**名古屋大**(医-医)。また、**横浜国立大**(教育人間科学-マルチメディア文化)では、募集人員を08年度:前期70名・後期20名から09年度:前期45名・後期45名と、25名を前期日程から後期日程へ移す。このほか、**岩手大**(教育)、**東京海洋大**(海洋工-流通情報工)、**信州大**(繊維)、**名古屋工業大**(工-情報工)などで後期への募集人員シフトがみられる。

### ◆AO入試実施大は64大学164学部に

後期日程廃止と連動した動きとなっているのがA O入試の拡大である。

2000年にスタートした国公立大のA O入試は、2008年度入

【表2】国公立募集人員の変化



	国立				公立				国公立全体			
	07年度	08年度	09年度	差(09-08)	07年度	08年度	09年度	差(09-08)	07年度	08年度	09年度	差(09-08)
前期	63,593	63,627	63,731	104	13,436	13,564	13,803	239	77,029	77,191	77,534	343
後期	18,260	17,400	16,948	-452	3,442	3,376	3,325	-51	21,702	20,776	20,273	-503
中期					1,988	1,939	1,915	-24	1,988	1,939	1,915	-24
AO	2,190	2,468	2,649	181	330	402	431	29	2,520	2,870	3,080	210
推薦	11,173	11,665	11,953	288	5,521	5,632	5,973	341	16,694	17,297	17,926	629
その他	850	708	739	31	421	409	498	89	1,271	1,117	1,237	120

※文部科学省資料より

※上記の数は7月末現在の募集人員であり、予定のものを含んでいる

※その他は、社会人選抜、帰国子女選抜などが含まれる

試では60大学155学部へ拡大した。来春入試も4大学9学部増の64大学164学部となる。

大学として新たにAO入試を導入するのは、**弘前大**(医-医)、**奈良女子大**(文)、**北九州市立大**(地域創生学群)、**九州歯科大**(歯)、**佐賀大**(文化教育(学校-音楽、人間環境-健康福祉・スポーツ))の5大学。実施学部を増やすのは後期日程を廃止する**東北大**(文)、**金沢大**(医薬保健学域-薬、創薬科学)、**九州大**(教育)のほか**信州大**(理-数理・自然情報科学、農-森林科学)などがある。

**弘前大**(医-医)のAO入試は北海道・東北の指定地域の高校卒業予定者を対象としたもので、募集人員40名のうち25名は青森県出身者に限定される。また、「卒業後は弘前大医学部およびその関連施設で勤務することを確約できる者」であることを出願要件の1つとしており、地域医療に貢献できる人材の育成を目的としている。**奈良女子大**(文)は推薦入試を廃止して新たにAO入試を実施する。募集人員も推薦入試の10名から12名に増やす。**信州大**(農-森林科学)は実地試験を課す。

AO入試においては大学の求める人材の獲得を狙ってバリエーションも拡大している。**首都大学東京**(都市教養-物理学・化学・生命科学)では新たに「科学オリンピック入試」を実施する。「全国物理コンテスト物理チャレンジ」「全国生物学コンテスト生物チャレンジ」「全国高校化学グランプリ」で優秀な成績を修めた者を対象とし、面接・口頭試問により選抜する。また、出身地域を限定したり卒業後に特定地域での就業を確約させる地域枠を設置する大学も多い。前述の**弘前大**(医-医)のほか、**九州歯科大**(歯)も募集人員17名のうち12名を地域枠とし、地域の人材育成を目的とする。

国立大学協会は2008年度入試から推薦やAO入試の募集人員について、上限を従来の3割から5割に改めており、今後もAO・推薦入試の募集人員の拡大が予想される。

一方で、AO入試を取り止める大学も出てきた。2009年度入試から**筑波大**(社会・国際学群-国際総合学類)、**一橋大**(商)で廃止され、**九州大**(法)も2010年度の廃止を予告している。AO入試では学力試験が課されないことが多いため、一部で入学者の学力不足などが問題となっている。今後はセンター試験必須化や、方式自体を廃止するなどの動きもありそうだ。

【表3】後期日程を廃止する大学

大学名	学部(学科)
青森公立	経営経済(地域みらい)
東北	文(人文社会)
群馬	教育(学校-数学・理科・技術)
東京医科歯科	医(保健-看護学、保健-検査技術学)
一橋	商
金沢	医薬保健学域(医学類、薬学類、創薬科学類)
岐阜	教育(学校-社会・音楽・美術)
三重	教育(学校-社会科、理科)
京都	医(人間健康科学)
大阪	理(生物科学(生物科学コース))
大阪市立	医(医)
鳥取	医(生命科学)
山口	教育(学校-国語、情報科学教育)
九州	教育、医(保健)
九州歯科	歯(歯)
長崎	教育(学校-中学数学・中学技術・中学家庭)、医(医)
鹿児島	教育(学校-国語、学校-技術)

### ◆医学科の定員増と地域枠推薦入試の拡大

文部科学省は8月までに、2009年度から国立34大学162名(滋賀医科大の編入学定員2名を除く)、私立4大学15名の計179名の医学科定員増を了承した。このほか公立大学でも3大学10名の定員増が検討されている。これらは政府の緊急医師確保対策に基づくものである。

緊急医師確保対策は、2007年に政府・与党がとりまとめたもので、医学科の定員増に関する部分は、「①各都道府県において、2009年度からの最大9年間(2008年度から増員した大学は10年間)に限り、最大5人(北海道は15人)の増員を容認する」「②医師養成総数の少ない県(神奈川県-横浜市立大、和歌山県-和歌山県立医科大)においては、2008年度から20人までの恒久的な増員を容認する」となっている。その前年に策定された新医師確保総合対策に続いて、医師不足解消を打ち出したものである。すでに2008年4月より②の横浜市立大と和歌山県立医科大を含む6大学で緊急医師確保対策に基づき医学部の定員増を行っており、今回の増員は①への対応となる。

また、文部科学省は6月の閣議決定で医学科の入学定員を「過去最大程度まで増員」と発表し、上記の判明分に加え、8月末にはさらに国立199名、公立約70名、私立約300名の増員が検討されていることが明らかとなった。この増員は「医師不足が深刻な地域や診療科の医師を確保するための実効ある取組み(地域医療貢献策)を講ずることを前提」とするもので、増員を希望する大学は9月22日までに定員増計画を提出し、12月下旬に認可される予定となっている。具体的な選抜方法等は現段階では明らかにされていないので、今後の大学からの発表に注意したい。

これらをまとめ、河合塾で調査し把握している医学科の(1年次)入学定員の増加大学・増加数は48大学で計381名にのぼる(9/5現在)。国公立大医学科の定員については、一覧をP26にまとめたのでご参照いただきたい。

このような「医学部の入学定員増」の流れは医師不足が深刻な地域や診療科の医師確保を目的とするもので、入試制度面では、出身地や卒業後の勤務地に制限がある「地域枠入試」が近年急速に拡大している。2008年度は1年次入学定員の8.3%にあたる386名が地域枠に割り振られた。2009年度入試では、現時点で**筑波大**、**金沢大**、**浜松医科大**、**名古屋大**、**岡山**、**広島**、**大分**、**琉球大**の8大学が新たに地域枠を設けた入試を実施することが判明している。**名古屋大**は一般入試の後期



日程を地域枠として、**岡山大**は前期日程のうち5名を地域枠に設定、その他の大学は推薦入試として募集する。

医学科については医師を取り巻く環境が大きく変化しているうえ、「後期日程の廃止」「地域枠推薦の導入」「理科3科目必須大の拡大」など入試制度面でも変更点が多い。志望者には、しっかりと状況を把握させておきたい。近年の地域医療の現状等は、本誌7・8月号でレポートしているので、ぜひ一読いただきたい。

## ◆一橋大(後)・京都大で選抜方法が大きく変更

続いて入試科目や選抜方法の主な変更点をまとめる。

### ①選抜方法を大きく変更する大学

#### (一橋大・京都大)

**一橋大**は後期日程の選抜方法を大きく変更する。商学部では後期日程を廃止。法、社会学部も募集人員をそれぞれ10名に縮小し、入試科目も変更される。法学部はセンター試験科目を従前の4教科から6教科7科目に増やす。2次試験は、法、社会学部とも学科試験が廃止され面接と論文での入試となる。論文の補足として「社会・文化に関する英語の論文または資料を示して理解力等をみる」とあり、外国語がなくなったことから論文は英語力も問われる内容と変更されているので志望者は注意したい。一方、経済学部はセンター試験を6教科7科目から5教科6科目に減らし、2次試験では小論文と英語の聞き取り・書き取り試験が廃止される。また、2次試験の数学の出題科目がⅠ・Ⅱ・A・BからⅠ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cに変更となるが、Ⅲ・Cは学習していない者に配慮して選択問題等として出題される。

全学部で後期日程の募集がなくなる**京都大**では、前期日程の入試科目に変更がある。文系学部では2次試験の数学で数学Cが除外される。ただし、注釈として『「数学A」の‘場合の数と確率’は条件つき確率なども含むものとする。その内容は「数学C」確率分布の‘確率の計算’程度とする』という記載が加わっている。経済学部では理系入試が導入される。センター試験は5(6)教科7科目、2次試験は英・数・国の3教科で数学ではⅢ・Cが課される。これに伴い、論文入試でも選抜方法が変更となる。センター試験は第1段階選抜のみの利用となり、2次試験は「数学・論文」から「英語・国語・論文」になる。また、工学部では2次試験で新たに国語が課され、4教科となる。そのほか、医学部の人間・作業療法学の前期の2次試験で面接が廃止され、理科の生物が必須から選択になる。

### ②センター試験の教科・科目数の増減

2004年度にはじまり徐々に実施大を拡大してきた国立大のセンター試験7科目化はほぼ定着し、来春入試で新たに7科目化するの**一橋大**(法-法律-後)のみとなっている。

一方、7科目から科目数を削減する大学もある。**一橋大**(経済-後)は5教科6科目に、**長崎大**(教育-学校-中学保健体育-前)は5教科5科目、**長崎大**(歯-歯-後)は3教科4科目、**琉球大**(法文-国際-ヨーロッパ文化-前-後)は6教科6科目となる。公立大でも、**滋賀県立大**(環境科学-環境生態)が前期で5教科6科目とする。同大学ではこれまで負担感の大きい理科2科目・地公2科目を必須としていただけに、志望者にとっては朗報だろう。

この結果、来春入試で7科目を課す募集人員の割合は、国立は前年から0.3ポイント減の86.6%、公立は0.4ポイント減の27.6%となっている。安定した人気を集める難関大とは対照

的に、地方大では都市部の私立大との競合により入試科目の設定を見直す大学も出てきている。今後も科目数削減に踏み切る大学の増加が予想される。

### ③医学科の理科3科目必須化

2006年度入試より医学科の理科3科目必須化が拡大している。来春入試では新たに**岡山大**、**徳島大**でも理科3科目が課され、いずれもセンター試験の物・化・生が必須となる。一方、**大阪大**では3科目からかつての2科目(物・化・生から2)に減らす。理科3科目必須大は**旭川医科大**、**北海道大**、**京都大**、**岡山大**、**徳島大**、**九州大**、**佐賀大**、**京都府立医科大**、**大阪市立大**、**奈良県立医科大**の10大学となる。

### ④センター試験の科目変更

前述のほか、センター試験科目の変更で影響が大きそうなものを挙げる。なお、詳細はP39「2009年度入試変更点一覧」をご覧ください。

**公立はこだて未来大**(システム情報科学-前-後):2教科3科目→4教科5科目

**前橋工科大**(工-生物工-前-後):理科1→2科目

**静岡大**(人文-経済-前):4教科4科目→5教科6科目

**広島大**(理-化学-後):理科1→2科目

**県立広島大**(保健福祉-コミュニケーション障害-後):5教科6科目→3教科3科目

**高知大**(人文-人間文化-前-後)6教科6科目→3教科3科目  
など

### ⑤2次試験の科目変更

2次試験科目の変更で、影響が大きそうなものを挙げる。

#### ●英語リスニング試験の廃止

**北九州市立大**(外国語)

#### ●教科数・科目数増

**弘前大**(農学生命科学-分子生命科学-前):1→2科目

**首都大学東京**(システムデザイン-インダストリアルアート-前):教科数増

**金沢大**(医薬保健学域-薬・創薬科学類-前):理科1→2科目

**静岡県立大**(経営情報-経営情報-前):2次試験を課す(小論文)

**京都府立医科大**(医-看護-前):小論文増

**岡山大**(薬-薬・創薬科学-後):小論文増 など

#### ●教科数・科目数減

**公立はこだて未来大**(システム情報科学-前):3→2教科

**前橋工科大**(工-生物工-前):理科2→1科目

**筑波大**(医学群-看護学類-前):理科減

**信州大**(理-物理科学-後):2次試験の廃止

**愛知県立大**(看護-後):英語・小論文減

**大阪市立大**(商-商-後):2次試験の廃止

**神戸大**(工-機械工以外-後):英語減

**奈良女子大**(理-化学・情報科学-後):2次試験の廃止

**広島大**(教育-科学-技術・情報系-前):数学のⅢ・Cが除外される

**福岡教育大**(初等-幼児教育-前):国語減

**北九州市立大**(外国語-英米-後):英語減

**琉球大**(理-物質地球科学(物理学)-後):2次試験の廃止  
など

#### ●その他

**千葉大**(工-建築-前):物理が実技との選択から化学との

選択になる

**横浜国立大**(工-物質工-化学及び物質のシステムとデザイン-前):総合問題→数学・理科

**滋賀大**(経済-情報管理-前・後):数学が必須から国語との選択になる

**鳥取大**(地域-地域教育・地域環境-前):総合問題→学科試験

**高知大**(人文-人間文化-前):総合問題→英語・国語

**北九州市立大**(国際環境工-後):総合問題→学科試験(建築デザイン学科は面接)

**琉球大**(教育-心理臨床科学-前期A群):学科試験→小論文など

## ⑥2段階選抜実施大学の変化

2段階選抜の実施を予告している大学は、55大学164学部。

2段階選抜を取り止めるのは、**名古屋市立大**(医-医-前)、**大阪大**(文-前・後、外国語-前・後、法-前、経済-前、医-保健-前、歯、人間科学-前・後)、**大阪市立大**(商-後)。一方、新たに2段階選抜の実施を予告している大学は、**群馬大**(医-医-前・後)、**熊本大**(医-医-前・後)がある。また、数大学で予告実施倍率を変更しているが、**東京医科歯科大**の歯学科の後期では募集人員の増加がないにもかかわらず10→6倍と倍率を引き下げているので注意が必要である。

## ⑦地方会場の新設

近年、国公立大でも受験生の獲得に向け他の都市に試験会場を設けるケースがみられる。

来春入試では、**香川大**が兵庫に、新設の**新潟県立大**が東京に試験会場を設置する。また、すでに地方試験を実施していた大学では、**釧路公立大**が盛岡に、**下関市立大**の中期が高松・鹿児島に、**福岡県立大**の前期が鹿児島にそれぞれ会場を増設する。

## ⑧募集区分の変更・日程の変更

**岩手県立大**(ソフトウェア情報)ではこれまでセンター試験を課さない前期日程のみで実施していたが、これに加え2009年度からセンター試験を課す前期日程Bと後期日程を新設する。前期Bはセンター試験が4(5)教科5科目、2次試験は総合問題で、後期はセンター試験1教科、2次試験は数学で実施する。

また、**大阪市立大**(理)では新たに理科選択枠を設置する。入試時に志望学科を指定せず、1年次終了時に希望学科を選択することができる制度で、前期日程のみで9名を募集する。

このほか、既存の日程や募集区分を変更する主な大学は下記の通り。

**北海道教育大**(教育岩見沢-芸術)

管弦打楽器専攻:楽器の種類ごとに募集→専攻一括募集

鍵盤楽器専攻・作曲専攻:専攻ごとに募集→2専攻を一括募集

**横浜市立大**(国際総合科学-国際総合科学-前):文系理系共通募集枠を廃止

**奈良県立医科大**(看護):後期日程を地域枠にする

**佐賀大**(文化教育-学校-音楽):前期日程を廃止

**琉球大**(教育-日本語教員):前期日程を廃止

(教育-心理臨床科学-後):C群・D群→一方式で実施

## ◆大学の新生、学部・学科の増設・改組

### ①大学の新生・統合

2009年度に新設予定の公立大は**千葉県立保健医療大**、**新潟県立大**の2大学。**千葉県立保健医療大**は千葉県立衛生短大と千葉県医療技術高等学校の統合によって、また、**新潟県立大**は県立新潟女子短大を4年制大に昇格させる形で新設される。

ここ数年相次いでいる公立大の統合では、愛知県立大と愛知県立看護大が統合して(新)**愛知県立大**となる。文学部は日本文化学部と教育福祉学部の2学部で改組、外国語学部には国際関係学科が新設される。また、これを機に夜間主コースと3年次編入が廃止される。情報学部は情報システム学科と地域情報科学科の2学科を情報科学科の1学科に改組する。旧愛知県立看護大の看護学部はそのまま移行される。

### ②学部の新設

学部の新設が予定されているのは**福井県立大**(海洋生物資源)と**北九州市立大**(地域創生学群)の2大学。

**福井県立大**の海洋生物資源学部は、生物資源学部の海洋生物資源学科を改組して新設される。**北九州市立大**の地域創生学群は、社会人の学びにも対応した昼夜開講制で開設され、6・7限と土曜の授業を中心とする夜間特別枠の募集も実施する。地域創生学群の開設に伴い、文・外国語・法・経済学部の夜間主コースは廃止となる。

### ③学科の新設・改組

学科の新設には、**群馬県立女子大**(文-総合教養)、**富山県立大**(工-環境工)などがある。

**室蘭工業大**(工)、**岩手大**(工)、**宇都宮大**(教育)、**東京大**(工)、**京都大**(経済)、**大阪市立大**(工)、**徳島大**(総合科学)、**鹿児島大**(工)、**琉球大**(農)では学科の再編・改組が行われるので志望者には注意させたい。

### ④教育学部の改組・再編

**岩手大**、**宇都宮大**、**静岡大**、**岐阜大**、**山口大**、**福岡教育大**、**琉球大**の7大学で課程再編の動きがある。

**岩手大**は、学校教育教員養成課程の小学校教育コースと中学校教育コースを再編し学校教育コースとする。また、生涯教育課程と芸術文化課程でコースの改編を行う。各課程の入学定員に変更はない。

**宇都宮大**は、生涯教育課程と環境教育課程の2課程を統合し総合人間形成課程とする。総合人間形成課程は6つの領域で構成されるが、領域は入学後選択するため入試は課程一括で行われる。課程全体の入学定員に変更はない。

**静岡大**は、学校教育教員養成課程の環境教育専攻および生涯教育課程の生涯学習専攻を廃止する。入学定員は生涯教育課程で20名、総合科学教育課程で15名、芸術文化課程で5名それぞれ減員し、学校教育教員養成課程を40名増員する。

**岐阜大**は学校教育教員養成課程の生涯教育講座の募集を停止する。課程全体の入学定員に変更はない。

**山口大**は学校教育教員養成課程に小学校教育コースを新設する。また、情報科学教育課程、健康科学教育課程、総合文化教育課程の入学定員をそれぞれ10名ずつ減員し、学校教育教員養成課程を30名増員する。

**福岡教育大**は、初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程、環境情報教育課程、生涯スポーツ芸術課程をそれぞれ再編する。初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程は



コースを廃止し、それぞれ選修、専攻での組織に変更となる。初等教育教員養成課程には英語選修、技術ものづくり選修、生活・総合選修が新設され、募集人員は40名増となる。中等教育教員養成課程では実践学校教育コースが募集停止となり、募集人員は10名増となる。環境情報教育課程、生涯スポーツ芸術課程は領域・分野を廃止し、コースでの組織に変更となる。環境情報教育課程環境教育コースの人間環境領域は募集停止となる。

琉球大は、学校教育教員養成課程を小学校教育コース、小・中学校教科教育コース、特別支援教育コースの3コースに改組する。また、生涯教育課程は従来の6コースを5コースに再編する。各課程の入学定員に変更はない。

かつて教員養成課程は定員抑制分野として指定されていたが、団塊世代の定年退職に伴う教員採用増もあり、2005年3月に文部科学省告示により教員分野の定員抑制が撤廃された。これを機に、教育学部では「教員養成課程の拡大」「総合科学課程の縮小」が潮流となっている。

### ◆第2回全統マーク模試からみた志望動向

最後に、この夏に行われた第2回全統マーク模試のデータをふまえ、来春入試の動向を占ってみよう。

第2回全統マーク模試における国公立大全体(前期日程)の志望者数は前年比97.2%であったが、受験人口減少に伴い模試受験者数も前年比96.5%と減少しているため、国公立大の人気の下がっているわけではない。それでも、大学志願者数減少の影響は国公立大においても避けられず、基本的には減少基調にあるといえる。

【表4】は難関12大学について志望者数の昨今を比較したものである。難関12大学全体は前期日程計で前年比98.3%と国公立大全体の前年比を上回っており、人気は比較的安定している。大学別では**東京医科歯科大**が前期日程で前年比84.9%の大幅な減少となった。歯学科の人気低迷が影響している。

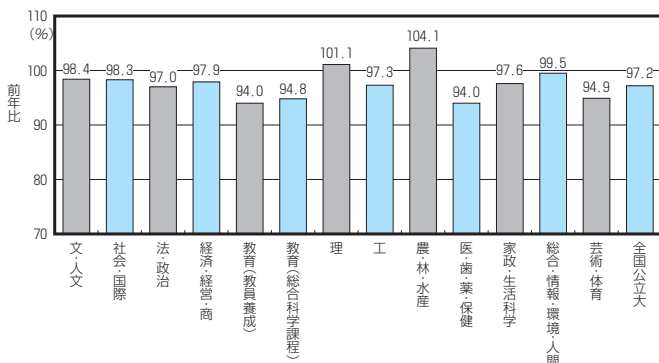
【表4】難関国立12大学の志望動向(第2回全統マーク模試より)

大学名	前期日程			後期日程			全日程計		
	07年度	08年度	前年比	07年度	08年度	前年比	07年度	08年度	前年比
北海道	5,514	4,841	87.8%	2,363	2,086	88.3%	7,877	6,927	87.9%
東北	6,047	5,982	98.9%	850	625	73.5%	6,897	6,607	95.8%
東京	7,031	6,770	96.3%	1,371	1,158	84.5%	8,402	7,928	94.4%
東京医科歯科	682	579	84.9%	267	170	63.7%	949	749	78.9%
東京工業	2,192	2,155	98.3%	673	574	85.3%	2,865	2,729	95.3%
一橋	3,137	3,073	98.0%	1,365	958	70.2%	4,502	4,031	89.5%
名古屋	8,010	8,364	104.4%	-	3	-	8,010	8,367	104.5%
京都	5,731	5,737	100.1%	108	-	-	5,839	5,737	98.3%
大阪	7,946	8,065	101.5%	3,402	3,322	97.6%	11,348	11,387	100.3%
神戸	8,662	8,796	101.5%	3,024	3,193	105.6%	11,686	11,989	102.6%
広島	5,923	5,626	95.0%	2,275	2,118	93.1%	8,198	7,744	94.5%
九州	6,013	5,733	95.3%	1,585	1,385	87.4%	7,598	7,118	93.7%
上記大学計	66,888	65,721	98.3%	17,283	15,592	90.2%	84,171	81,313	96.6%
全国公立大計	227,128	220,720	97.2%	85,935	81,063	94.3%	327,053	316,905	96.9%

※各大学・日程の出願予定者数を集計(単位は人)

※全国公立大計の全日程計の数には中期日程・別日程を含む

【グラフ5】国公立大(前期日程) 学部系統別の志望動向(第2回全統マーク模試より)



後期日程の志望者数は前年比94.3%と前期日程以上に減少率が大きい。これはやはり後期廃止・縮小によるものといえる。今春入試では前期日程出願者に対する後期出願者の割合は82.5%で、後期廃止が本格化する前の06年が86.6%であったのに比べ大きく低下している。来春入試も最終的に後期の受験を止める者の割合は増加することが予想される。大学別の状況を見ると、**神戸大**が前年比105.6%で唯一の増加となった。**京都大**、**名古屋大**がほぼ後期日程全廃となっていること、今春入試で近隣の**大阪大**が大幅に後期志願者を増加させたことから**神戸大**への流入が起こっているとみられる。成績上位者層も増加しており、動向が注目される。

【グラフ5】は学部系統別の動向をみたものである。文系では「教育」系がやや不人気だが、全体的に前年並みの数値となっており、系統間で極端な人気・不人気はみられない。

理系では「理」「農」学系が前年を上回る志望者を集めている。この2系統は今春入試でも前年並みの志願者を集めており、一頃低迷が続いていた人気は回復したとみてよいだろう。反対に志望者の減少が目立つのは「医・歯・薬・保健」学系。特に「歯」は前年比71.0%、「医療技術」は同91.6%と大幅な減少となっている。

## 私立大学編

### ◆4年制大学の約半数で定員割れ 大学規模間・地域間で定員充足率の2極化が拡大

7月末、日本私立学校振興・共済事業団が2008年度の私立大学の入学志願動向の調査結果を発表した。

これによると、今春入試での入学者数が入学定員を下回った大学は全体の47.1%、266校となり、前年度より7.4%、44校

増えていることがわかった。また、定員の50%に満たない大学は26校にのぼっている。2008年度私立大の延べ志願者数は3,062,825人で、18歳人口が約6万人減少しているにもかかわらず前年度より約4万人増加した。しかし、志願者を増やした大学は大都市圏のマンモス大学に限られており、都市部と地方、大規模校と小規模校間の格差は広がり大学の2極化は進む一方となっている。

【グラフ6】は、地域別に私立大の定員充足率を集計したものである。これをみると東京が充足率115.65%、南関東、京都・大阪が108.89%と大都市圏では定員充足率が100%を大きく上回っているが、北海道、北関東、甲信越、北陸、中国、四国地域では95%に満たない状況となっている。【グラフ7】は大学の規模別にみた定員充足率のグラフであるが、定員が300人未満の大学では充足率が90%にも達しておらず、深刻な定員割れを起こしている。このような状況の中で、地方の大学では入学定員の削減に踏み切る大学も出てきている。これは定員充足率が下がると国からの補助金が削られ、50%を切ると完全にカットされるので、見かけ上の定員充足率を上げるための苦肉の策と考えられる。このような状況下で行われる来春入試について、主な入試変更点や学部・学科の新增設の動きについて見ていこう。

## ◆人気大学の「学部統一試験」導入は鎮静化 一般方式からセンター方式へ、受験生への負担はさらに軽減

### ①人気大学の大幅改革は小康状態、しかし受験機会は拡大の一途

ここ数年受験生に人気の首都圏の大学でも入試の改革が盛んに行われてきた。地方試験会場を設けたり、従来の「学部個別試験」に加え1回の受験で複数学部が併願できる「学部統一試験」の導入などである。2009年度に新たに導入されるのは中央大(法、経済、商、総合政策)の学部間で併願が可能な「統一入試」と、東海大(理系10学部)で3学部・学科まで併願が可能な「理系学部統一入試」、玉川大の「全学統一入試」学部別入試である。昨年ほど大幅な入試制度の変更はみられないが、他の大学でも受験機会の拡大への動きは続いている。大東文化大では全国入試の試験会場を14→24会場に増設、一般入試の試験日を2日から4日に増加させている。また、駒澤大や玉川大では受験料の割引制度を導入している。

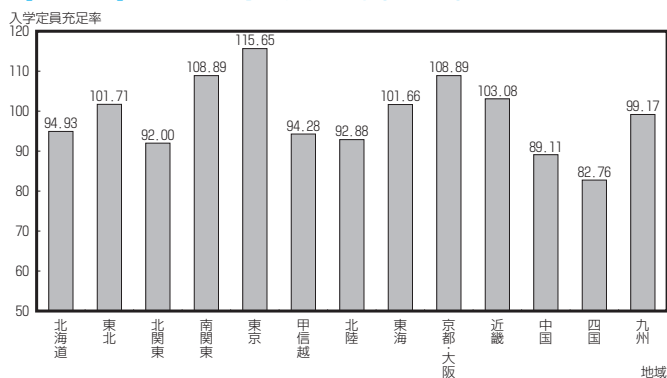
早稲田大と慶応義塾大の試験日の変更は他大学と合わせて受験生の併願に大きな影響を与えようである。早稲田大(文)は2/23→2/17、(文化構想)は2/17→2/12と試験日を約5日早める。慶応義塾大(薬)のB方式は2/4→2/12と約一週間遅らせており、この学部・系統の志望者には他大学との併願を含めて受験プランの作成に注意が必要となるだろう。

### ②一般方式のスリム化とセンター方式の拡大

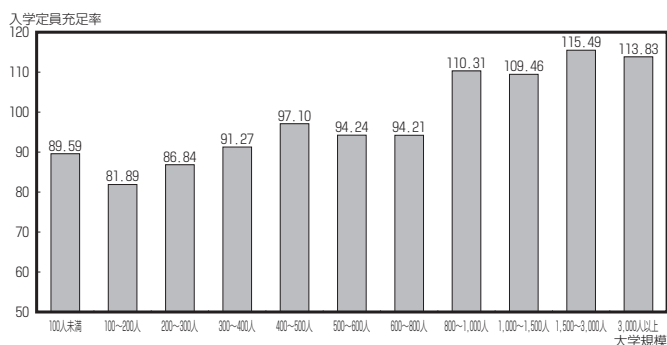
来春も、一般入試では入試方式・日程の拡大や入試科目の増減といった変更が多くみられる。しかし、一部の大学では受験生の集まらない方式・日程を廃止するといった「入試のスリム化」に踏み切る動きも目立っている。獨協大では、2月下旬に実施していたD方式を廃止、中京大(情報理工)も前期B方式の実施を取りやめる。また、昨年新設の青山学院大(社会情報)は設置初年度の入試はA方式(60名)、B方式(60名)、C方式(30名)で実施していたが、今年度はA方式(100名)、B方式(30名)(昨年のA方式を廃止し、B、C方式をA、B方式に名称変更)の2方式に変更する。

一般入試の方式を増やすかわりに、センター方式の実施回

【グラフ6】私立大 入学定員充足率(地域別)



【グラフ7】私立大 入学定員充足率(大学規模別)



数を増やす大学も数多く見うけられる。一般入試は、大学側には試験問題作成・採点や試験会場の運営などの負担、受験生には試験会場に赴くという負担がかかることから、双方にとってメリットの大きい「センター利用入試」へのシフトが多く大学でみられる。とくに一般入試の二期・後期にあたる3月の選考を増やしている大学が多い。杏林大(保健)Ⅱ期、(外国語、総合政策)Ⅲ期、武蔵大では後期を設ける。また、近畿大では従来の前期(センター試験実施前出願)、後期(3月出願)に加え、中期(センター試験実施後出願)を実施する。

また、センター試験と既存の一般入試の成績の一部を併せて判定を行う「併用」「センタープラス」といった方式の設置もここ数年続いている。センター試験で高得点が取れた科目と一般入試の得意科目を組み合わせることによって、受験生の出願を促進させたいという大学の狙いが見てとれる。桜美林大(リベラルアーツ)、西南学院大(文、商、国際文化、人間科学)、九州産業大では、来春入試からこの併用方式を新たに設ける。

### ③センター試験新規利用大学は18大学50学部

2009年度からセンター試験利用方式を新たに導入する私立大は18大学、また利用を拡大する学部も50学部あり、私立大全体の82%にあたる484大学1366学部での利用となる。(数字は2008年3月末現在、文部科学省資料より)

来春の新規導入で注目されるのは首都圏の大学では早稲田大(社会科学)、明治大(国際日本)で、センター試験の必要科目は6科目、4科目と入試科目は一般的な私大型より多くなっている。また、青山学院大(社会情報)も新規導入で、オーソドックスな3教科型であるため志願者を集めそうだ。近畿圏の主要大学では同志社大(生命医科学):センター4科目と面接、立命館大(薬):センター7科目、が受験生の負担は大きいもの的人气大学だけに志願者を集めようである。

### ④入試科目・教科数の変更

入試科目では、「科目の減少」「科目の指定範囲を狭くする」



「必須だった科目を他との選択にする」等、受験生の負担が軽減される変更が少なくない。上智大(総合人間-教育)では2次試験を廃止、早稲田大(人間科学)のセンター方式でも二次の小論文を廃止し、志望者が集まりそうだ。また、東京理科大(工、理工)のセンター併用方式では個別試験の理科が学科により物理か化学の指定がされていたが、生物も加わり3科目からの選択となり、受験しやすく変更になった。ほかに、龍谷大では従来の得意科目を2倍する「配点セレクト方式」の2倍にする科目のバリエーションを増やし、文系学部では“選択科目重視型”、理系学部では“理科重視型”を追加する。

### ⑤医学科の定員増

このほど緊急医師確保対策に基づき、文部科学省から2009年度に医学科の定員増を予定している大学の状況が発表された。これによると私立大学でも29校、約320名の定員増を検討している(8月末現在)。大学別の人数の詳細は公表されていないため、今後公表される各大学の募集要項を待ちたいところである。

また、その他の医学科の入試変更では、愛知医科大がセンター利用入試を新規で導入、昭和大は、出身高校の地域ごとに募集人員を分け、センター試験が必須の地域別入学選抜試験を実施する。また、順天堂大でも8月末時点では詳細は発表されていないが、東京都地域枠入学試験を実施する予定である。

### ⑥充実の給費・特待生入試、受験料割引制度

河合塾では毎年、給費・特待生入試を実施している大学を調査しているが、今年はその数が575大学中357大学となった。来年度からは国際基督教大、和光大、久留米大などが新たに実施する予定だ。専修大ではスカラシップ入試と全国入試で同一学科・選考を併願した場合、併願の受験料を免除する制度を導入する。

給費・特待生入試の多くは一般入試の選考も兼ねている場合が多く、特待生合格とならなかった場合でも一般入試の合格として扱われる場合があるので、是非チャレンジしてみたいものである。「給費・特待生・奨学生入試を実施している私立大学」の一覧は河合塾入試情報サイトKei-Netに掲載しているので、そちらを是非ご参照いただきたい。

(<http://www.keinet.ne.jp/>)

そのほかに、複数学部・方式を併願すると受験料を割引または無料とする大学も多い。拓殖大では、一般入試で1回受験すると35,000円のところ同時出願という制限はあるが、2回受験すると30,000円となり、1回よりも2回受験した方が受験料が安くなっている。

## ◆改組・新增設の動き

18歳人口の減少により、大学は生き残りをかけてより時代に即した「魅力ある学部・学科」の立ち上げに懸命だ。ここ数年、活発化している学部・学科の改組、新增設の動きについてまとめておく。

### ①新設大学では医療系・教育系の学部を設置

来年度は9大学が新設される【表8】。9大学中3大学が短大を4年制大にする、いわゆるスクラップアンドビルドによる新設である。地区別の内訳は東北地区に2大学、関東地区に4大学、近畿地区に2大学、中国地区に1大学である。このうち、埼玉県には東都医療大、日本保健医療大という同じ看護系の単

科大学が2大学新設される。

近年、私立大では「看護」を中心とした医療系と「子ども」「幼児教育」といった児童・幼児教育系の学部・学科の新設が目立っているが、来年度の新設大学も、7大学が医療系、2大学が児童・幼児教育系である。

### ②私立大学の学部新設・再編の特徴

次に学部の新設・再編の状況を見てみよう。学部の新設でも「看護」「教育」「子ども」などの名称が多く見られる。とくに教育系では、青山学院大(教育人間科学)、関西学院大(教育)といった、受験生に人気がある大学に新設されるので、今後の志望動向が注目される。

医療系、児童・幼児教育系はどちらも資格と縁が深い系統である。ここ1~2年、大学生の就職状況が好調なことから、資格に直結する学部は全体的に人気下がりが気味であるが、看護系は相変わらず人気を保っている。そういった状況のなか、来春もまたいくつかの大学・学部の新設が予定されている。系統としての定員が増えれば、志願者は分散して倍率は低下する。学部・学科の新設ラッシュは、志望者には追い風となる。

一方で、児童・幼児教育系は、人気が低調である。資格系学部の人気落ち着いたことに加え、最近、教員をめぐるマイナスイメージのニュースが多いことも影響しているとみられる。今春入試でも大学・学部の新設で入学定員は増加したものの、系統全体の志願者数は減少しており、かなり低倍率の大学も見受けられた。来春もこの系統の人気は低調で、人気大学をのぞけば志願者は分散し、入試では易化が望めそうだ。

### ③「心理」「スポーツ」「観光」系の学部・学科も目立つ

このほか目につくのは、「心理」「スポーツ」「観光」といった名称の学部・学科だ。このうち駿河台大、同志社大、大阪樟蔭女子大では心理学部を新設する。いずれの大学でも既存学部の心理学部を学部昇格させる。なお、学部昇格に伴い、同志社大(心理)では入学定員が65名から150名へと拡大する。

スポーツ系では札幌国際大(スポーツ人間)、北翔大(生涯スポーツ)、法政大(スポーツ健康)といった学部が新設される予定だ。スポーツ系学部は健康科学、医科学、経営学といった分野からスポーツにアプローチする、スポーツ健康、スポーツ医学、スポーツビジネスといった学科がある。スポーツ系の学部は、ここ2年ほど各地で学部・学科の新設が目立っている。これまで学部・学科が少なかった分野でもあり、他の

【表8】私立大 新設大学一覧

都道府県	大学	学部	学科	定員
青森	弘前医療福祉	保健	看護	50
			医療技術	
			作業療法学専攻	40
			言語聴覚学専攻	30
秋田	日本赤十字秋田看護	看護	看護	100
埼玉	東都医療	ヒューマンケア	看護	100
	日本保健医療	保健医療	看護	100
東京	こども教育宝仙	こども教育	幼児教育	100
			鍼灸	60
	東京有明医療	保健医療	柔道整復	60
			看護	50
滋賀	びわこ学院	教育福祉	子ども	80
大阪	大阪保健医療	保健医療	リハビリテーション	
			理学療法学専攻	60
			作業療法学専攻	40
広島	広島都市学園	健康科学	看護	100

系統からどれくらいの受験生を取り込むかが注目される。観光系の学部・学科もこの3年ほど学部の新設が目立つ系統である。来年度は**秀明大**(観光ビジネス)、**松蔭大**(観光文化)の2学部が新設される。

#### ④有名大の学部新設

昨年ほど設置数が多くはないものの、来春も都市部の有名大で学部が新設される。一部はすでに紹介しているが、**青山学院大**(教育人間科学)、**法政大**(スポーツ健康)、**同志社大**(心理)、**関西大**(外国語)、**関西学院大**(教育)などが挙げられる。これら都市部の大規模大学は、非常に人気が高く、18歳人口減にも関わらず志願者は増加傾向にある。新設学部についても、すでに多くの受験生に認知されており、第2回全統マーク模試(8月実施)でも多くの志望者を集めている。また、有名大の学部新設は、同じ大学内の類似系統学部や競合する大学の志望者の動きにも影響を与えるので、近隣併願大学を含めた今後の志望動向の変化に注意したい。

#### ⑤ユニークな名称の学部・学科も増加

「リベラルアーツ」「フロンティアサイエンス」など、聞きなれない名称の学部もみかける。こういった新しい名称の学部が新設される背景には、18歳人口が減少するなかで、志願者を確保しようと改革に取り組む大学の姿勢が見て取れる。入学者を確保できない学部・学科は募集を取り止め、受験生の興味を引きそうな学部・学科に衣替えすることで、志願者を集めようという思惑である。学部・学科の改組によって、時代にマッチした魅力的な内容に変わることは受験生側にとっても好ましいことだが、反面、名前を見ただけでは何が学べるかがよくわからないケースも多い。入学してから後悔しないためにも、イメージだけで捉えることなく、中身をよく吟味した上で大学・学部選びをする必要がある。

### ◆第2回全統マーク模試から見た志望動向

最後に、第2回全統マーク模試の結果から私立大の志望動向をみておこう。

本模試の受験者数は前年比96.5%であった。私立大全体の志望者は前年比97.4%であるので国公立大同様堅調な人気を

【表9】私立大 難易度別の志望動向(第2回全統マーク模試より)

ボーダー偏 差値帯	志望者数(人)		前年比
	07年度	08年度	
72.5~	9,243	9,153	99.0%
70.0~	23,111	22,000	95.2%
67.5~	27,816	26,912	96.8%
65.0~	47,574	47,594	100.0%
62.5~	79,547	75,432	94.8%
60.0~	74,218	73,423	98.9%
57.5~	97,104	99,442	102.4%
55.0~	74,939	74,909	100.0%
52.5~	101,605	100,508	98.9%
50.0~	89,226	86,330	96.8%
47.5~	83,383	80,853	97.0%
45.0~	69,055	64,826	93.9%
42.5~	51,469	49,253	95.7%
40.0~	44,024	41,489	94.2%
37.5~	36,515	35,306	96.7%
35.0~	56,723	52,660	92.8%
BF(ボーダーフリー)	31,101	26,400	84.9%
ボーダーなし	2,665	2,367	88.8%
全私立大	999,318	968,857	97.0%

※ ボーダー偏差値帯は前年実態ベース(無いものは予想難度を使用)

※ 集計は一般方式のみ集計

維持しているといえる。方式別では、センター方式が前年比98.7%、一般方式が97.0%でセンター方式が前年比は高くなっているが、これまでのセンター方式の圧倒的伸びに比べると今回の模試ではその差はかなり縮まっている。

【表9】は一般方式の志望動向を大学の難易度別にみたものであるが、偏差値帯による志望者の大きな片寄はなく、比較的分散する状況となっている。しかし偏差値帯の下位よりは上位の方が志望者が集まっており、難関大志向、2極化の傾向は続いている。首都圏の難関大をみてみると、**青山学院大**、**専修大**、**中央大**、**東洋大**、**法政大**、**立教大**では志望者の前年比が105%を越え、高い人気を保っている。**早稲田大**(社会科学)は昼夜開講制を廃止し昼間部へ移行することもあり、一般方式、センター方式とも非常に多くの志望者を集めている。

【グラフ10】は学部系統別の志望動向をみたものであるが、文系では今春入試同様、「経済・経営・商」学系が人気となっている。「社会・国際」学系は若干志望者が減り前年比96.9%、文系学部で一番人気のなかった「法・政治」学系は前年比94.4%と人気回復の兆しは見えていない。理系では「農」学系の人気が高く、特にセンター方式の志望者が増加しているが、これは日本獣医生命科学大のセンター試験利用入試の新規実施によるところが大きい。今春入試で志願者を集めていた「理」学系は100.9%と前年並、「工」学系は94.6%と若干減少となっている。最後に医療系の詳細系統をみてみると、「看護」103.8%、「医」100.6%、「薬」92.0%、「医療技術」88.9%、「歯」72.9%となっており、看護、医学科は相変わらずの人気を保っている。

来春入試の動向は、次回模試の動向を踏まえて、本誌12月号でさらに詳細をご報告したい。

【グラフ10】私立大 学部系統別の志望動向(第2回全統マーク模試より)

